

より良い明日へ  
2008日中青少年友好交流年

2008

# 日中青少年友好交流年



外務省

財団法人 日中友好会館



内閣総理大臣  
福田 康夫

日中両国は、今日ほどアジアと世界の安定と発展に貢献できる能力を持つに至ったことはありません。私たちは、この新しい時代における日中関係の重要性を十分認識しつつ、その関係を更に高い次元へと高めていくため、改めて相互理解を深める努力が必要です。そのためには、まずは彼我の間の活発な交流が必要であり、真の相互理解があってこそ、初めて相互信頼を打ち立てることができるのです。

その中で青少年交流が特に重要な役割を果たすことは言うまでもありません。青少年は未来の希望です。将来にわたり安定した日中関係を築いていくために、今後50年、100年先を見据え、互いに理解を深め、互いの違いを尊重し、共に学び合っていく「人」を日中双方に育てることが大切です。「日中青少年友好交流年」には、私と温家宝総理のこうした思いがこもっています。

中国から日本に来た高校生たちは、皆口々に「想像していた日本と違う」、「新しい日本を発見した」と言って帰国していきます。自分の目で見、耳で聞き、体感することで、先入観や偏見が消え、相手への理解が深まることは素晴らしいことです。これは中国を訪れた日本の高校生も同様です。日中が協力し、地域や国際社会の課題解決に共に貢献する人材を輩出していければ、両国は世界に誇り得るパートナーになると信じています。

本年は日中平和友好条約締結30周年でもあります。この日中両国にとって節目の年に、両国の明日を担う青少年間の活発な交流を通じて、相互理解と相互信頼を更に深め、両国の明るい未来図を共に描いていくことを心から期待しています。

福田康夫



国务院総理  
温家宝

三月の北京は万物一新の季節です。「中日青少年友好交流年」の開幕は、そんな春の気配をより一層濃いものとし、北京の風景をさらに美しく彩ってくれます。ここに中国政府を代表致しまして、皆様に謹んでご挨拶と歓迎の意を申し上げます。

中日の世代にわたる友好は人心の向かうところであり、大局のおもむくところでもあります。今年は『日中平和友好条約』締結30周年です。昨年私と福田首相がシンガポールで会談した際、この記念すべき特別な年に、「中日青少年友好交流年」事業を行うことで合意しました。これは両国の青少年がさらに歴史を認識し、現在を把握し、未来を思考するために、大変重要な意義を持つものだという認識で一致しています。

中日両国は一衣帯水の隣国であり、同時にアジアにおける重要な国でもあります。両国の青少年はそれぞれの民族の未来を代表し、また世代代にわたる中日友好に大きな責任を背負っています。皆様が高い見地から将来を見つめ、遠大な志を抱き、お互いに学びあい、ともに歩み続けて、平和と友情を広げるパートナーシップを築いていくことを、心から期待しております。

最後に、「中日青少年友好交流年」事業の更なる発展とご成功をお祈りしまして、ご挨拶と致します。

温家宝



外務大臣  
高村 正彦

日中両国政府は、日中平和友好条約締結30周年である本2008年を「日中青少年友好交流年」としていくことといたしました。日中両国は現在、共に協力して「戦略的互恵関係」を構築し、アジア及び世界の平和と繁栄に対して共に建設的な貢献を行っていくべく努力しているところですが、この「戦略的互恵関係」を支えるのが、国民間、特に青少年の間の相互理解と信頼です。

未来を担う日中の青少年の交流が極めて重要との認識に基づき、日中間では既に2006年より大規模な青少年交流を実施してきています。2006年は約1,200名の、07年には約2,000名の中国高校生を招聘し、また、日本からも06年は約200名、07年は約300名の高校生が中国側の招待により訪中しました。この日中青少年交流を更に拡大し、今後4年間にわたって、4,000名規模の青少年交流を実施していきます。

本「交流年」の成功のために、外務省としてもできる限りの努力をしていきます。民間諸団体、各自治体などと共に、また、中国政府及び関係機関と緊密に連携し、「交流年」を盛り上げ、2008年を日中関係飛躍の年にしたいと考えています。皆様の積極的な御支援・御協力を心よりお願い申し上げます。

高村正彦





外交部部長  
楊 潔 篪

この度、「中日青少年友好交流年」の開幕に当たり、心よりお祝い申し上げます。

今年は中日平和友好条約締結30周年にあたります。この記念すべき年を「中日青少年友好交流年」と定めたということは、中日双方にとって長い将来を見据えたものであり、また国民同士、特に若い世代が互いに学びあい、相互理解を深めるための重要な一歩だと思えます。交流年の一連の事業がスムーズに行われることは、中日関係の健全かつ安定した発展に積極的な役割を果たすものだと確信しています。

中日両国の青少年はそれぞれの国の未来を担い、更に中日関係の明るい未来を切り開く歴史的な使命を託されています。両国の若い世代が、さまざまな形で実施される多彩な交流事業を通じて、中日友好に積極的な貢献を果たすことができるよう心より期待しています。

「中日青少年友好交流年」が成功を収めることをお祈りいたします。

楊潔篪



文部科学大臣  
渡 海 紀三朗

日本と中国には千年を超える長い交流の歴史があり、近年は、人的交流及び文化交流の面で、両国の結びつきは一層緊密なものになってきています。

特に本年は、「日中青少年友好交流年」として、両国の青少年の交流を幅広く実施することとされています。

日本では、次代を担う青少年の交流を促進すべく、「21世紀東アジア青少年大交流計画」により、5年間にわたり毎年約2,000名の中国の高校生を招請することとしています。また、中国政府の招聘により日本からも多数の高校生が中国を訪問します。

訪日する高校生の皆さんは、日本の高校生との学校での交流やホームステイを行い、日本の名所・旧跡などを訪れることとなります。是非、この機会に、日本の自然や文化に親しむとともに、日本の若者との積極的な交流に努めてください。

そして、日本で見たことや聞いたこと、感じたことなどをそれぞれ持ち帰り、これからの日本と中国の架け橋となってほしいと思います。

政府の事業以外でも、日中間で高校生の交流が活発に行われています。例えば、日本人高校生の海外修学旅行先の第5位は中国で、平成18年度には約1万6,000人が訪れました。また、中国からも、教育旅行として約4,000人が日本を訪れています。さらに、我が国に留学してくる外国人高校生は、中国からの高校生が最も多くなっています。

相互の文化や伝統を理解し合うことは、国際社会の平和と発展を築いていくためにとても重要なことです。こうした交流を通じて、両国の平和と今後ますますの繁栄と友情、相互理解が進むことを心から祈念しています。

渡海紀三朗



教育部部長  
周 濟

春の光が輝き、万物が一新するこの時季に、「中日青少年友好交流年」が盛大に開幕されるに当たり、中華人民共和国教育部を代表し、また私個人の名において心よりお祝い申し上げます。

2008年は「中日平和友好条約」締結30周年であり、またオリンピック・イヤー、そして中日青少年友好交流年でもあります。中日友好の基盤は民心にあり、その未来は青少年の肩にかかっています。そのため、青少年交流を推し進め、友好事業の後継者育成に努めることが、両国民の相互理解と信頼関係促進にとって、重大かつ深遠な戦略的意義があると思います。

日本はわが国にとって、最も重要な教育交流相手国の一つです。中国教育部は一貫して中日青少年交流を重視しており、中国の中小高校・大学と、日本のパートナーとのさまざまな交流をサポートしてきました。現在、両国はそれぞれが相手国の主要留学先となっています。中国人留学生は長期にわたって在日留学生数の国別1位を占め、一方、日本人留学生は在中留学生数において2位にランクしています。両国の留学生がすでに中日友好事業の若き戦力となり、友好の使者として積極的な役割を果たしています。

中日の戦略的互恵関係の確立と、その絶え間ない強化に伴い、両国民の間では、相手国言語の学習が空前のブームとなっております。中国は日本で「孔子学院」を設立し、また中国における日本語学習者の総数は世界第2位に位置しています。言葉を学ぶことが、友好に向けた意思疎通の架け橋となるのです。

また、中国教育部は長年、両国政府間の青少年交流プロジェクトを担当してまいりました。特に2006年の「日中21世紀交流事業」と2007年の「21世紀東アジア青少年大交流計画」においては、緻密な計画と周到な手配によって、3,000人余りの中国人高校生が日本への交流訪問を果たしました。訪問団は日本側の心のこもったおもてなしに接し、日本政府と国民の温かい友情に感銘を受けました。また中国の高校生たちの活躍が先日本側に良い印象を与え、相互理解の増進に大きく貢献することができました。青少年間の活発な交流は、両国の友好を伝え、戦略的互恵関係を更に充実させるため、積極的かつ特別な役割を果たしていると思います。

「中日青少年友好交流年」の中国側実施機関の一つとして、我々は交流年関連事業に積極的に関わり、対応してまいります。そして今後とも中日友好事業、特に青少年交流に貢献する所存です。

「中日青少年友好交流年」がすばらしい成功を収められるようお願い申し上げます。

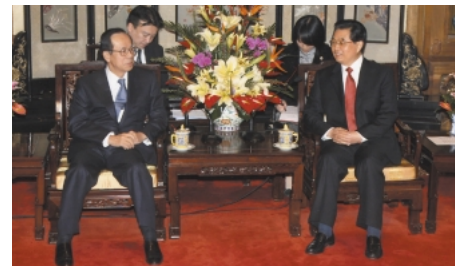
周濟

# 日中青少年友好交流年 とは



「日中青少年友好交流年」とは、2008年が日中平和友好条約締結30周年であることを記念し、両国青少年の相手国に対する理解を増進するため、両国で一連の青少年交流事業を幅広く展開するものです。日中両国の青少年交流は、両国国民の相互理解と友好的感情を増進し、両国の「戦略的互恵関係」の内容を充実させるため重要な役割を果たします。

07年11月のシンガポールにおける日中首脳会談において、日中平和友好条約締結30周年である08年を「日中青少年友好交流年」とすることで一致し、同年12月の福田総理訪中の際、「『日中青少年友好交流年』の活動に関する覚書」に署名しました。この覚書に基づいて今後は、青少年交流の範囲を拡大し、高校生交流に加えて、大学生及び行政、経済、学術、文化芸術、メディア、環境、エネルギー等の分野の青年代表の招聘・派遣も実施し、2011年までの4年間、毎年4,000名規模の青少年交流を実施する予定です。



2007年12月 福田総理訪中（胡锦涛国家主席と会談）  
（写真提供：内閣広報室）



2007年12月 福田総理訪中  
（温家宝総理臨席の朝食会には、訪日した中国高校生も参加）  
（写真提供：内閣広報室）

## ◆「日中青少年友好交流年」の活動に関する協力計画（抜粋）

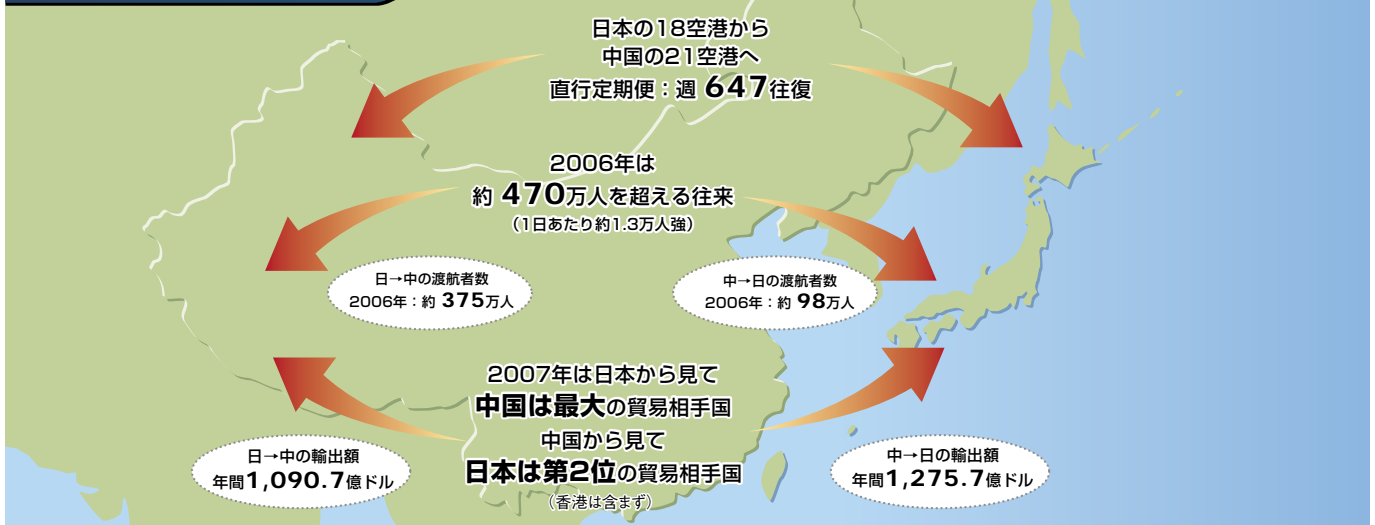


（2007年12月福田総理訪中時）

双方は、2008年から4年間、年間4000人規模の青少年の相互訪問を実現すべく努力する。具体的な交流事業は以下のとおり。

- (1) 中国側は、毎年、日本の高校生及び大学生並びに政治、行政、経済、学術、青年団体、友好交流、文化芸術、メディア等の分野の計1200名規模の青年代表を中国に短期招聘する。
- (2) 日本側は、「21世紀東アジア青少年大交流計画」により2007年に中国の高校生約2000名を成功裡に招聘した。日本側は、同「計画」により、今後4年間、引き続き毎年2000名規模の中国の高校生を短期招聘し、また、大学生及び行政、経済、学術、青年団体、友好交流、文化芸術、メディア、環境、エネルギー、科学技術、医療衛生、農業等の分野の計750名規模の青年代表を日本へ短期招聘する。

## 日中交流の現状



### ■年々年始（2006-2007）の海外旅行

**中国が第1位（約9万人）の推計**  
（2位韓国8.4万人、3位欧州8万人、4位ハワイ6.2万人）  
（JTBのプレスリリースより）

### ■中国在留邦人数（香港含む）

**約12万5,000人**（06年10月現在）

### ■留学生数：約9.3万人（06年）

中→日：約**7.42**万人 日→中：約**1.83**万人

### <中国>

・日本人の観光・商用目的で15日以内の滞在につき、査証を免除（03年9月）

### <日本>

- ・中国の修学旅行生に対し査証免除措置を実施。（04年9月）
- ・中国国民訪日団体観光の対象地域を中国全土に拡大。（05年7月）
- ・中国人家族の訪日観光の査証申請受付開始。（08年3月）

### ■姉妹都市

**325組（都県・市町村）**（07年12月末現在）



# 日中高校生交流 ～「心連心(心と心結び合う)」～



## 中国高校生の短期招聘 (約1,950名)

中国(香港、マカオを含む)の高校生を8泊9日の日程で日本に招き、学校交流、ホームステイや、環境・福祉に関する施設の参観、日本の政治、経済、科学技術、社会、文化に関する参観や体験学習を通じて、日本に対する理解を深めます。中でも力を入れているのが、高校生同士の交流、ホームステイです。日本の一般家庭や同世代の若者の生活を理解することにより、強固な日中関係の基礎を作ることを目的としています。

日本を訪れた高校生からは、「百聞は一見に如かず。実際に自分で見ると日本はとても魅力的」、「ホームステイの家族と別れるとき涙が止まらなかった」等の感想が多く寄せられています。(6頁「参加者の声」参照)。(財)日中友好会館、(社)日中友好協会、(財)日本国際協力センターが実施しています。



皇太子殿下よりご接見を受ける中国高校生  
(2006年5月 写真提供:宮内庁)

### 07年 第5陣中国高校生訪日団日程表 (参考)

10月23日	成田着
10月24日	東京都内視察、 外務省表敬訪問
10月25日	鳥取へ移動
10月26日	文化体験及び学校訪問 (交流会・部活動体験など)
10月27日	市内視察、京都へ移動
10月28日	市内視察及び環境学習
10月29日	学校訪問、ホームステイ
10月30日	学校交流、大阪へ移動
10月31日	帰国



## 中国高校生の長期招聘 (約40名)

長期招聘では、日本語が堪能な中国の高校生を日本に招聘し、11ヶ月の日本滞在を通して日本の社会と文化をより深く理解する機会を提供します。また同時に、日本の人々にも中国の青少年と直接交流する機会を提供し、これらにより、「人」と「人」の心のつながりをつくり、日中両国の長期的な関係発展の基礎となる信頼関係を築くことを目的としています。

JENESYS事業に先立ち06年度に32名が来日し、07年度は37名を招聘しています。今後も毎年40名前後を招聘する予定です。

帰国した第一期生からは「長期のホームステイを通じて、本当の親子のような強い絆が生まれた」、「部活動を通して、仲間と共に苦しみを克服する喜びを知った」、「長期間滞在することで日本の良い部分も悪い部分も何故そうになっているのかを含めて理解できるようになった」等の声が寄せられています。国際交流基金日中交流センターが実施しています。



### 中国高校生長期招聘第二期生日程表 (参考)

07年6月中旬	選考面接
7月上旬	招聘生徒への採用通知
9月4日	成田着
9月5～7日	オリエンテーション、研修(埼玉)
9月8日	受入各地の担当教員・ ホストファミリーとの対面式 受入地へ移動
08年3月20～24日	中間研修(大阪)
7月第4週	帰国前研修・報告会
7月末	帰国



## 日本高校生の中国派遣

中国政府も招聘事業を実施し、日本の高校生代表団を6泊7日の日程で中国に招聘しています。中国の家庭にホームステイしたり、中国の学校を訪問してスポーツやグループ懇談などの交流をするほか、中国の歴史・文化施設等を見学し、中国に対する理解を深めています。06年度は200人、07年度は800人を派遣し、今後も継続していく予定です。参加した高校生からは、「ホームステイで中国にも家庭ができた」、「中国の高校生に刺激を受けた」、「雄大な歴史遺産に感動した」等の感想が寄せられています(6頁「参加者の声」参照)。

派遣する高校生は、文部科学省を通じ、全国都道府県の教育委員会から公募します。短期・長期招聘の中国高校生の受け入れ(ホームステイを含む)を行った高校及び生徒から優先的に派遣します。(財)日中友好会館及び(社)日中友好協会が実施しています。



### 07年日本高校生代表団第2陣日程表 (参考)

9月21日	西安着
9月22日	植樹活動、ホームステイ
9月23日	学校訪問(スポーツ交流、 交流会など)
9月24日	西安市内視察
9月25日	北京へ移動、レセプション
9月26日	市内視察、学校訪問(交流会)
9月27日	在中国日本大使館表敬訪問、 帰国

# 日中の青年交流

2008年から2011年まで、大学生及び行政、経済、学術、青年団体、友好交流、文化芸術、メディア、環境、エネルギー、科学技術、医療衛生、農業といった幅広い分野の青年代表団を相互に招聘（1週間程度）し、各分野の視察、交流、セミナー、ホームステイ、ホームビジット等を通じ、日本及び中国に対する理解を深めます。



## フォローアップ体制



心連心コミュニティサイト(ウェブサイト)(<http://www.chinacenter.jp/>)

日中の高校生交流を補完する役割を担う参加型のウェブサイトです。交流事業に参加した高校生に加え、受け入れを行った学校の生徒やホストファミリーを会員とし、互いに書き込みを行うことができ、帰国後の交流継続の一つの手段となっています。日中同時翻訳機能を搭載し、双方向の交流が可能になっています。日中両国の若者には、アニメ、音楽、テレビドラマ等共通の話題がありますが、語り合う機会がない、互いに親しみを感じない等の理由で、相互理解が進んでいない状況です。その状況改善の足がかりとして、日中の若者に国境を越えて気軽に交流できる環境を提供します。最も人気があるのは、この交流事業に参加した日中の高校生の書く「卒業生日記」と現在1年間日本に滞在している中国高校生が書く「留学生日記」です。彼らの目から日本がどのように見えているのかがわかります。

高校生交流の実施報告(動画あり)、日中交流イベントや日本の観光地を紹介する動画コーナー、様々なトピックについて意見交換ができる投稿ページ、日中の若手アーティストによる映画作品や美術作品映像など、日中の文化・社会への好奇心を満たすことができるコンテンツが盛り沢山です。(運営:国際交流基金)

### 帰国後の交流会

日本から帰国した後、訪日した高校生や引率者の報告・交流会を行っています。  
地域ごとの参加者が集まり、久しぶりに会う仲間と日本での思い出や経験を語り合い、“日本”をテーマに懇談する良い機会です。

### ふれあいの場

中国の人々がインターネットや音楽ソフト、雑誌、漫画、書籍により、J-POPやファッション等の流行情報、若者文化に触れる窓口として、中国の地方都市に開設されるもので、第一号は07年に四川省成都市にオープンしました。第二号は、08年に吉林省長春市にオープンする予定です。現地の在留邦人や日本滞在経験を持つ中国市民の協力を得つつ、顔の見える交流が実施される場となることを目指します。交流事業に参加した中国の青少年が、日本と交流を続ける基盤となることも期待しています。(運営:国際交流基金)

詳しくは、心連心ウェブサイト(<http://www.chinacenter.jp/>)をご覧ください。



## 参加者の声

### 訪日した中国高校生

ホームステイの時、日本のお母さんが25年前に結婚した時に着た貴重な着物を出してきて、一時間もかけて私に着せて下さいました。そのときお母さんの手がすりむけて、指先に血が滲んでいるのに気付きました。そんなにまでしてくれて、と私は感動と興奮の入り混じった気持ちで日本のお父さんお母さんと一緒に写真を撮りました。私たちの心はしっかりとつながっていました。

(07年度第6陣訪日)

日本の皆さんはとても熱心で友好的、善良で純朴です。学校訪問、ホームステイから町で出会った人々まで、日本人は感じが良かった。今回のプログラムを通じ、日本を知ることができた。また、日本の高校生や先生に、中国を知ってもらうこともできた。とても良い交流だった。日本人は熱心にお客さんをもてなす。ホームステイのお陰で二つ目の家ができた。中国と変わらない温かい家庭でした。

経済がとても発展していました。治安も良く、何人かが忘れ物、落とし物をしましたが、皆戻って来ました。日本には学ぶべきところが沢山あると思います。

(07年度第1陣訪日)

### 中国高校生を受け入れた日本の家庭(07年11月28日付 読売新聞への投書)

先日、中国人の女子高校生2人が我が家に一晩ホームステイをした。2人との会話は英語なら可能ということだったが、英語さえおぼつかない我が家族にとっては、期待と不安が入り交じる受け入れとなった。幸い、訪れた彼女達は笑顔がとてもすてきで、高校生と中学生の3人の娘たちとすぐに打ち解けた。夕食を取りながら楽しいおしゃべりが弾み、末の娘が「日本の歌を知っていますか?」と片言の英語で尋ねると、童謡の「ぞうさん」や人気アニメの主題歌などを挙げてくれた。やがて中国語と日本語の歌の大合唱となった。その日娘たちには宿題があり、居間で教科書を広げ始めると、彼女たちは持っていた歴史の教科書を見せてくれた。すると、長女も自分の日本史の教科書を引っ張り出してきて、古くから日中の交流があったことを皆で確認して喜んでいた。わずか1日だけの滞在だったが、翌日は涙の別れとなった。小さな交流ではあっても、信頼を一つ一つ積み重ねていくことがお互いの国をつないでいくのだと実感することができた。私たちは再会を約束した。



### 長期留学した中国高校生

もしこの一年がなかったら、私の視野は狭いままだったと思います。今の私は勉強で大変な思いをしていますが、(日本で)他の人たちよりも豊富な経験ができましたし、楽しい生活も体験できました。各国の高校生と一緒に未来を語り合い、本当に世界が大きく広がりました。

今私が一番なりたいのは弁護士です。中日両国のために尽くしたいと思います。

(第一期生・07年7月帰国)

### 訪中した日本の高校生

少し中国の人と分かり合えた気がしました。誤解し合っているだけなのだということもわかりました。私たちが架け橋になって、中国で体験したこと、感じた事を沢山の日本人に伝えたいです。お互いに分かり合うことは、少し話せば解決することだし、簡単なことです。これからもっと日中の関係が良いものになっていくことを強く願います。いつかは仲良しの国になってほしいです。

(07年度第1陣訪中)



中国訪問で私は様々な人に出会い、沢山の笑顔を見てきました。私の脳裏にその笑顔が焼きついて離れません。私はそのみんなの笑顔が消えることの無い世界を未来に望みます。過去の過ちは繰り返してはいけません。しかし、過去にとらわれすぎて何も出来ないのも悲しいことだと思います。私たちは未来に向かって日中友好の足取りを進めていく必要があります。互いに尊重しあい、互いに思いやり、みんなが笑って過ごして行けるような、そんな未来をつくりたいと私は思います。

(07年度第3陣訪中)



# 日本青少年代表1000人が訪中

～「交流年」開幕式に出席～



日本青少年代表団1,000名は、2008年3月10日～16日まで中国を訪問し、北京では「日中青少年友好交流年」開幕式に出席しました。

開幕式には、中国側からも青少年約1,000名が出席。日中双方合わせて2,008名が一堂に会し、二胡や和太鼓などの楽器演奏、ダンスといった多彩なパフォーマンス交歓を行いました。さらに、胡錦濤中国国家主席が臨席し、直々に「交流年」開幕の慶びと期待を述べられると、集まった日中両国青少年から大きな歓声と拍手が湧き起こりました。熱気に包まれた会場。日中青少年の友好を固める関連事業スタートにふさわしいエネルギーに満ちた式典となりました。



胡錦濤国家主席が来場（2008年3月15日 於：北京）



立命館大学によるブラスバンド演奏とチアリーディング（2008年3月15日 於：北京）



同代表団は中国政府の招きにより実現したもので、新日中友好21世紀委員会日本側座長・小林陽太郎氏を最高顧問に、外務大臣政務官・宇野治氏を総団長に編成した訪中団。団員は、10の都県から選抜された高校生のグループと、全国から応募した大学生、および経済・教育・国家公務員・地方自治体・報道・友好団体関係者から成る社会人のグループから編成されました。高校生グループは、重慶、大連、成都の3コースでそれぞれ学校訪問やホームビジットを通じた交流を展開。また、大学生は上海を、社会人は広州を訪れ、参観やホームビジット、青年同士の交流を行い、各地で熱烈な歓迎を受けました。



# 日中青少年交流の歩み

1972年 9月	日中国交正常化、日中共同声明発出
1978年 8月	日中平和友好条約署名
10月	日中平和友好条約批准書交換、発効
1984年 9月	日本青年3000名の訪中
1985年 3月	中国青年代表団100名来日（団長:胡錦濤共産主義青年団第一書記）
同年 10月	中国青年訪日友好の船代表団500名来日（団長:劉延東中華全国青年連合会主席）
1991年 5月	日中青年交流センターオープン（於:北京）
1998年 11月	「青少年交流の一層の発展のための枠組みに関する協力計画」に署名。（江沢民国家主席来日時）
2004年 9月	新日中友好21世紀委員会第2回会合において、青少年交流強化のため基金設置を提言。
2006年度	新日中友好21世紀委員会の提言に基づき、日中高校生交流を柱とする「日中21世紀交流事業」がスタート、年間1200名の中国高校生を招聘、200名の日本高校生を派遣。
2007年 4月	中国四川省に「日中ふれあいの場」第1号を開設。
2007年 6月	「21世紀東アジア青少年大交流計画」がスタート、年間約2000名の中国高校生の招聘、300名の日本高校生の派遣を実施。
2007年 11月	シンガポールにおける日中首脳会談で、2008年を日中青少年友好交流年とすることで一致。
2007年 12月	福田総理訪中、「『日中青少年友好交流年』の活動に関する覚書」に署名。
2008年 3月	中国における「日中青少年友好交流年」開幕式
2008年 5月	日本における「日中青少年友好交流年」開幕式（予定）

## 最近の日中青少年交流の経緯

日中両国首脳の合意に基づき、両国の有識者から構成される新日中友好21世紀委員会第2回会合（2004年9月 日本側座長:小林陽太郎・（株）富士ゼロックス相談役最高顧問、中国側座長:鄭必堅・前中央党校常務副校長）において、安定した日中関係を築くためには、日中の青少年間の相互理解が重要である旨指摘され、日中の青少年交流のための基金設置の提言が出されました。この提言に基づき、2006年に日中両国で「日中21世紀交流事業」が立ち上げられ、2007年には「21世紀東アジア青少年大交流計画」の中で実施していくこととなりました。



新日中友好21世紀委員会 第6回会合（於：秋田2007年6月）

### ◆「日中青少年友好交流年」を皆様の参加を得て幅広い事業にしたいと考えています。◆

事業として認定された場合、ロゴマークやキャッチフレーズを付与し、外務省ホームページや交流年終了後の報告書に掲載し、記念事業として広報する予定です。

●詳しくは外務省ホームページをご覧ください。 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/china/jcyk2008/index.html>



「中日青少年友好交流年」中国側実行委員会主席  
中国共産主義青年団中央委員会書記処第一書記 **胡 春華**

「中日青少年友好交流年」のスタートにあたり、中国側実施機関及び中華全国青年連合会を代表し、中日両国の青少年の皆様にご心よりお祝いの意を表します。

今年是中国日平和友好条約締結30周年にあたります。中日関係史上で記念すべき意義を持つこの年を「中日青少年友好交流年」と定めたのは、両国政府が中日関係の健全な発展促進を重視しているからであり、併せて両国民の未永い友好関係を願う気持ちの表れだと思います。

青少年交流は中日民間交流の重要な一環であり、絶えず積極的な発展の様相を示すと共に、中日関係の安定した発展を推し進める上で、欠かすことのできない存在として大きな役割を果たしてまいりました。こ

度の「中日青少年友好交流年」関連事業の実施は、長期にわたる中日青少年交流の成果であると同時に、両国青少年交流の更なる発展の新たな契機となるものです。両国の若者がこのイベントを機に、文化、学術、環境保護、科学技術、メディア、映画・テレビ、観光などの幅広い分野における交流を展開し、相互理解を深め、友好感情を固め、両国の友好関係の持続的かつ更なる発展に新たな活力を注ぐものと大いに期待しています。

「中日青少年友好交流年」の関連事業に対する中日両国政府及び関係者の皆様のご理解とご支援にお礼申し上げますと共に、交流年が華やかな成果を収められるようお祈りいたします。

胡春華



中国日本友好協会会長 **宋 健**

この度、「中日青少年友好交流年」開幕式の開催にあたり、中国日本友好協会を代表いたしまして、心よりお祝い申し上げます。

今年是中国日平和友好条約締結30周年であります。1972年の中日国交正常化以来、両国間の政治、経済、科学技術、文化、スポーツ及び地方都市などの幅広い分野での交流と協力の絶え間ない発展は、両国民の友好を深め、両国民に実益をもたらすと同時に、アジア太平洋地域と世界の平和に大きく寄与してまいりました。現在、中日関係はより一層の向上と発展の大きなチャンスを迎えています。中日両国政府が今年を「中日青少年友好交流年」と定めたことは、両国の指導者が中日関係の明るい未来の構築を見据えていることと表れであり、また中日友

好関係の増進を願う両国民の強い願望を反映したものです。

青少年世代は両国間の友好協力関係の発展の上で、大きな役割を果たす力を有しています。両国間の大規模な青少年交流事業を通じ、若者同士が相手国の歴史、文化、現状を知り、相互理解や友好感情を深め、更に中日友好交流の新たな絆を築き、両国の善隣友好関係を一段と発展させる新たな原動力として、「平和共存、世代友好、互惠協力、共同发展」という大きな目標の達成とアジア及び世界の繁栄と安定に大きな貢献ができることを、我々は心から期待しています。

中日青少年友好交流年関連事業が円満に行われるようお祈り申し上げます。

宋健



財団法人 日中友好会館会長 **林 義郎**

80年代末の冷戦終了後、日中双方は経済グローバル化が加速する時代の流れを受けて、平和的な環境のなかでいかに両国が相互信頼を深め、相互に発展していくかについての対話を深めてきた。対話のなかから、両国の次世代が未永くつきあっている環境づくりが大事であるとの認識に至った。それが「日中21世紀交流事業」であり、08年度を「日中青少年友好交流年」とした理由である。

99年から始まった高校生交流に参加した中国高校生は07

年末にすでに3,900名となり、08年度には約2,000名がやってくる。彼らは学校で授業や部活動に参加するなかで友人をつくり、ホームステイをして日本の家族の一員になり、日本の空気や心を肌で感じている。また、08年度からは新たに様々な分野の青年がやってくる。日本の高校生や青年たちも中国の招聘で約1,200名が訪中し、年間合わせて4,000人規模の相互交流が行われる。双方の若者にとって言葉の壁を超えて体得した友情や信頼は生涯の宝となる。日本と中国の明るい未来を彼らの輪のひろがりに託したい。

林義郎



独立行政法人 国際交流基金理事長 **小倉 和夫**

「私は日本で“友達”ではなく、“仲間”を見つけた」 —  
約一年の日本での留学生生活を終え中国への帰国を目前にした、ある女生徒が語った言葉です。

厳しい大学進学競争の故に学校では勉強に追われる毎日を送っている中国の高校生たちにとって、日本の高校での実習科目や部活動への参加、文化祭・運動会などを皆で作りあげる経験は新鮮な驚きであり、それが留学生生活を一層忘れ難いものにしたようです。16、7歳という年齢は人が心身ともに最も成長する時期といわれ、この多感な時

期の一年間に、中国の高校生たちが日本で吸収し消化したものは、大きかったと思われます。

また、生徒たちを受入れてくれた各地の高校・ホストファミリーの方々の中からも、中国の高校生たちと長い時間を共有するなかで、ときに考え方の違いに戸惑いつつも、ごく自然に隣人として中国を見ることができるようになったとの声が聞かれ、日中青少年交流は単に中国の若者たちばかりではなく日本の心をさらに広げる契機ともなったと思います。

日本と中国の未来をつくる…「長期招聘事業」はまさに心の交流、そして明日を開くプログラムです。

小倉和夫



社団法人 日中友好協会会長 **平山 郁夫**

日中両国政府が日中平和友好条約締結30周年の今年を「日中青少年友好交流年」として、青少年の交流を促進することは、未来を担う青少年に相互交流の機会を提供し、お互いの理解を深める上で、大いに意義があり、大変喜ばしいことです。

日本と中国の将来のためにも、次世代の若者の交流が活発に行われることを願っております。民間でも各地域や市町村などでホームステイを行い、日中の未来のため、青少年交

流が実施されています。各地方都市間の交流も更に広範囲に行われることが望まれています。日中の青少年が直接交流することによって互いの心が通じ合います。

日中両国の友好の歴史は、2,000年以上にわたり、文化、スポーツ、教育、芸術などあらゆる分野において築きあげられてきました。両国の青少年が固い絆で結ばれ、アジアと世界の平和と繁栄のため、貢献されることを願うものです。

平山郁夫





#### 連絡先

##### 外務省アジア大洋州局 日中交流室

〒100-8919 東京都千代田区霞が関二丁目2番1号  
TEL : 03-5501-8439 FAX : 03-5501-8438

##### 財団法人 日中友好会館

〒112-0004 東京都文京区後楽1-5-3  
TEL : 03-5800-3749 FAX : 03-5800-5472

#### ■ロゴマーク趣旨

「CJハート、日中交流の心のマーク」

China-Japanの頭文字「CとJ」をダイナミックに交流させ、新しいハート（心）を生み出しました。CとJは、長い交流を「種」とし、ぐんぐん天に向かってのび、成長回転します。ハートを大切に包み込み、守り、育てる様を表現しました。日中交流の基本も心（ハート）です。文化の心、スポーツの躍動する心を通じて、日中の現在へ、次世代へ、未来へ、交流のハートを回し続ける動きを志しました。「2007日中文化・スポーツ交流年」のロゴマークとしてデザインされましたが、好評につき、引き続き使用することとなりました。

作者：加賀谷 美幸さん（東京都台東区）

#### ■キャッチフレーズ趣旨

青少年は未来の主人公であり、また「明日」の象徴でもあります。「より良い明日へ」は、日中関係の未来に対する希望と祝福を青少年に託し、青少年が日中関係の発展を促進させるという確固たる意志を表しています。同名の曲「より良い明日へ」は中国では誰でも知っている親しみのある曲であり、歌詞の大意も「交流年」の主旨に合致するものです。